

日本医師会を透明性と多様性を重んじる真の医師集団とするために

平成 28 年 6 月 吉日

日本医師会会長立候補者石井正三選挙対策本部

日本医師会は重大な決断を迫られています。

最大の課題は、**医療費の財源確保**です。消費税 10%導入が延期されました。新たな財源確保を提言し国民に理解をしてもらわなければ、医療費の増額は全く見込めず、このままでは**2018年医療介護同時改定で診療報酬改定率は、高齢化による自然増を飲み込むことから、かつてない大幅マイナス**で**医療現場は崩壊**します。

過去 4 年間、日本医師会は地域医療構想、新設医学部、専門医制度等いずれの政策に対して日本医師会は政治の介入を招き、外圧に屈してしまいました。

現在の日本医師会は、残念なことに会員相互の十分な議論が行われないまま、**執行部の一部によって重大な決断が行われています。** 現会長も、大変な思いをしながら、たった一人で日本医師会を背負っていらっしゃいます。**これは日本医師会の組織構造上の問題です。**

日本医師会の決断は、医療現場で働く医師一人一人に影響します。**最後の結果責任は患者、住民と接する現場医師が負うこととなります。**

不透明な未来に向かって、意思決定を行い、結果の責任を引き受けるために人類が編み出した方法が**民主主義**です。

現場で働く医師一人一人が日本医師会を通じて、議論を行い、知恵を出し合い、執行部が会員の意志をくみ取り、政策判断する組織に作り替えましょう。